

羅 針 盤			方 策		点検・評価	達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価			
評価対象	評価項目	具体的数値項目	方	策	自己評価	外部アンケート等			総合		
I 高い進路実現を達成するための、三年間を見通した進路指導を行っていますか。	1 学校は難関大学合格を実現するための組織的な進路サポート体制を確立できていますか。	難関大学合格に向けた組織的な進路サポート体制が確立できていると感じる職員が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通した難関大対策計画を作成し、職員に提示していく。年度末の学校評価アンケート(職員対象)等で実態を把握する。 1, 2年生を対象とし、3年間を見通した難関大向けサポートを計画、実施する。サポートを受けた生徒を対象としたアンケートにより実態を把握する。 時代に合った進路プランを作成し、職員に提示していく。年度末の学校評価アンケート(職員対象)等で実態を把握する。 進路行事の見直しにより生徒の主体的な活動を重視していく。年度末の学校評価アンケート(生徒対象)で実態を把握していく。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 全職員が毎日の学習指導だけでなく、早朝課外や面接・小論文指導、大学別対策(みちしるべ)など様々な指導を熱心に行っている。個別面談等による進路相談も頻繁に行っており、職員全体の意識は高く協力体制もしっかりしている。今後さらに難関大学(特に年内入試)指導ノウハウを蓄積し、早期指導体制を確立していきたい。 	大学入試に向けた勉強方法・スケジュール・入試経験談などを下級生に伝える場を充実させてほしい			
		難関大学合格に向けての充実したサポートを受けていると感じる生徒が80%以上である。		A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 「よく当てはまる」「当てはまる」と回答した生徒は全体で90%を超えており、進路行事として実施した校内外のプログラムの満足度も高い。次年度もSAHのGP「自立・創造・対話」にふさわしいプログラムを企画・運営し、難関大学合格へ向けたサポート体制をより充実したものにしていきたい。 				
		体系的に位置付けられた進路プランが作成されていると感じる職員が80%以上である。		A	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は高校3年間を見通した進路指導計画案を新たに作成し、生徒一人ひとりの能力を3年間を見通して伸ばしていくという「進路プラン」の根幹にある考え方を生かしながら実践していった。計画案の内容や「進路プラン」という名称が浸透していなかったため、次年度は効果的に周知していきたい。 				
	2 学校は進路プランを体系的に位置付け、活用し、生徒一人ひとりの能力を最大限に伸ばしていますか。	体系的に位置付けられた進路プランが作成されていると感じる職員が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 進路行事の見直しにより生徒の主体的な活動を重視していく。年度末の学校評価アンケート(生徒対象)で実態を把握していく。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路実現に向けて努力する生徒、サポート体制も充実していると感じる生徒は多いが、進路指導計画(「進路プラン」)そのものが認知されていない。 				
		進路プランを活用し、自らの進路実現に向けて努力していると感じる生徒が80%以上である。		A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 総合型選抜・学校推薦型選抜などの早期入試出願数は200を超え、多くの合格者を出すことができた。全職員協力の下、さらに早期から指導していく必要がある。低学年から総合型選抜を意識して探究活動に取り組みせ、適切な高大接続を図ってほしい。 				
	3 学校は総合型選抜など、新しい入試制度に対応した進路指導を充実させていますか。	総合型選抜など新しい入試制度を意識した指導を行っていると感じる職員が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 新しい入試制度を含めた進路情報を生徒と同時に、職員へも提示していく。探究活動との連携も含め、本校の生徒への適切な対応について検討、実施していく。年度末の学校評価アンケート(職員対象)で実態を把握していく。 生徒に年間を通じた進路指導の中で情報提供をしていく。年度末の学校評価アンケート(生徒対象)で実態を把握していく。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 総合型選抜・学校推薦型選抜などの早期入試出願数は200を超え、多くの合格者を出すことができた。全職員協力の下、さらに早期から指導していく必要がある。低学年から総合型選抜を意識して探究活動に取り組みせ、適切な高大接続を図ってほしい。 		3年間を見据えた系統的なプランが生徒にとってどう活用すべきか、浸透していないように感じた 新しい入試制度について、アンケート結果から学年が上がると理解している生徒の数が増えているのは先生方の指導のおかげだと思う		
		総合型選抜など新しい入試制度を理解できている1, 2年生が80%以上である。		B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 総合型選抜という入試制度そのものの認知度は高まっているが、低学年ではまだ自分事として捉えられておらず、理解度はまだ不十分である。今後は探究活動など学校内外において生徒が様々な活動に取り組み、活動実績を上げ、さらに総合型選抜等で難関大学に挑戦する生徒を増やせるように支援していきたい。 				
	II 「主体的・対話的で深い学び」を重視した授業を推進していますか。	4 生徒は対話を重視した授業に主体的に取り組んでいますか。	生徒同士の対話を中心とした授業を受けていると感じる生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開期間での目標設定を通して全ての職員が対話的な授業を立案して実践できるようにする。年度末の学校評価アンケート(生徒対象)で実態を把握していく。 授業公開期間での相互参観や教科の代表者授業を通して適切なICTの活用方法について研鑽する機会を設ける。年度末の学校評価アンケート(生徒対象)で実態を把握していく。 授業公開期間での相互参観や振り返りシートの共有により「振り返り」の効果的な実施方法について全ての職員が計画して実践できるようにする。年度末の学校評価アンケート(生徒対象)で実態を把握していく。 適切な観点別評価について試験作成や評価方法について教科内で情報を共有する。年度末の学校評価アンケート(職員対象)で実態を把握していく。 総合的な探究の時間において生徒の主体的・対話的な活動となる取り組みを計画し、実施していく。生徒の「総合的な探究の時間」の自己評価等を利用して実態を把握していく。 	A	A	A			<ul style="list-style-type: none"> 6月と10月の年2回、校内での授業公開期間を設け、対話、発表を通じた授業について全ての職員が意識して実践を行ってきた。生徒同士の対話、発表を通じた授業を受けていると感じる生徒は97.2%であった。 	公開授業を見学した際、生徒同士の対話を中心とした授業を見ることができた。今後もこのようなスタイルで生徒の主体性を育ててほしい 生徒アンケートの結果が3学年とも評価が高くてよい
			ICTを活用して生徒が発表する機会を設けていると感じる生徒が80%以上である。		A	A	A			<ul style="list-style-type: none"> 年2回の校内授業公開期間や教育情報部からのICT活用に関する情報提供もあり、多くの教員が授業におけるICTの活用ができるようになってきた。ICTを活用した授業を受けていると感じる生徒は87.9%であった。 	
5 生徒による振り返りや観点別評価を重視した授業を推進していますか。		授業の振り返りにより、自己分析や学習の定着、意欲喚起につながっていると感じる生徒が80%以上である。	B		B	A	<ul style="list-style-type: none"> 各教科内で「振り返り」の効果的な実施方法について共有したり、授業公開期間での情報共有により多くの教員が計画して実践できるようになってきた。授業の振り返りにより、自己分析や学習の定着、意欲喚起につながっていると感じる生徒は76.1%であった。 				
		「指導と評価の一体化」を意識して授業を行っていると感じる職員が80%以上である。	A		A	B	<ul style="list-style-type: none"> シラバスや年間指導計画の作成段階で評価について教科内で検討や観点の共有を行い、指導と評価の一体化について情報共有を行うことができた。指導と評価の一体化を意識した授業・評価を行っていると感じる職員は81.3%であった。 				
6 生徒自身の興味関心を追究するとともに、様々な人との対話を通じて視野を広げる探究活動を推進していますか。		興味関心を追究した独自のテーマを設定し、様々な人との対話を通じて視野を広げる探究活動を進めていると感じる生徒が80%以上である。	B		B	B	<ul style="list-style-type: none"> 探究活動の振り返りは2月に実施するため、データは固まっていないが、昨年度よりもフィールドワーク活動の件数も増えており、様々な人との対話の機会は触れていると思われる。最終的なデータが固まり次第、内容を整理していきたい。 				
III 「社会に開かれた教育課程」を充実させていますか。	7 学校での学びを学校内だけに閉じず、外部の教育力を積極的に活用し、社会との接点を充実させていますか。	探究活動等において公的機関、大学、研究機関、企業への訪問に満足している生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間の活動を中心に生徒が大学、公的機関、研究機関、企業等を訪問する活動を実施していく。生徒の「総合的な探究の時間」の自己評価等を利用して実態を把握していく。 PTA活動を利用して授業公開を実施していく。学校評議員会は年2回実施し、地域、同窓会、大学、保護者の立場からの情報を収集していく。 生徒中心で企画する学校説明会とし、高女の魅力を伝えられるようにする。実態把握は申込数等から把握する。 Webページの更新頻度を高めて学校の最新情報を提供する。実態把握は学校評価アンケート(保護者対象)で実施していく。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 外部訪問をした生徒は1年生が2割程度、2年生は6割程度である。1, 2年生ともに、アンケート実施後に訪問・入力している生徒が多く、数字はまだまだ伸びると思われる。実施した生徒の満足度は98%と非常に高い。次年度は1学年は教育課程も変えていくことで、より充実した学びを実現していきたい。 	活発に動ける生徒はかりではないので、先生方からのサポートもおもしろい 授業公開やサミット等の案内があり良かった。中高の接続を教職員にも意識させる良い機会となった			
		学校は学校公開、学校評議員会、学校評価等を活用し情報収集に努めていますか。		授業公開を年1回以上、学校評議員会年2回、学校評価年2回を実施している。	A	A	A		<ul style="list-style-type: none"> 年2回の学校評価アンケートの実施や学校評議員会を年に2回実施し、地域、同窓会、大学、保護者の方から意見をいただくことができた。また、SAHの取組案については保護者も含めてアンケートを実施し、来年度の取組を検討している。 		
	9 学校はWebページ、学校説明会、各種通信等により情報発信に努めていますか。	中学生向けの学校説明会を年2回実施し、その参加人数が合計1000人以上である。		A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 企画の検討段階から生徒の実行委員会を中心に行い、当日の運営も生徒主体に実施することができた。2回の合計で1,600名以上の参加者があった。 				
	Webページにより学校の様子が分かること考える保護者が80%以上である。	A	A	B	<ul style="list-style-type: none"> Webページの更新頻度を高め、学校生活の大小さまざまな情報の発信に努めた。今後も保護者に日頃からWebページに目を向けていただく方策を考えていくと同時に、Webページで扱える情報にも限界があるので、Webページ以外の手段で適切な情報発信を行えるよう考えていきたい。 	学校説明会は生徒が中心となっているので、大人目線ではなく中学生により高女の魅力を伝えられてよい					
IV 充実した「カリキュラム・マネジメント」を行っていますか。	10 教職員は将来構想委員会や教員研修等を活用し、すべての教職員で学校の教育活動を定期的に見直していますか。	学校の教育活動を定期的に見直していると感じる教職員が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> SAHに向けた取組を含め、将来構想委員会からの提案を校務委員会を通して全職員に周知し、教育活動の見直しを進めてもらう。また、職員会議や校内研修を利用して全職員が教育活動を見直す場を設ける。実態把握は学校評価アンケート(職員対象)で実施する。 職員からのアンケート、職員会議、職員研修を通して全職員でスクールポリシーを作成し、それを意識した教育活動を展開していく。学校評価アンケート(職員対象)で実態を把握していく。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育活動を定期的に見直していると感じる職員は87.5%だった。毎週実施しているSAHコア会議を活用し、SAHの方向性を踏まえたカリキュラムマネジメントを今後も続けていきたい。 	継続して取り組んでいただきたい			
		11 教職員はスクールミッションやスクールポリシー、育てたい資質・能力、グランドデザイン等を検討作成し、それに基づいた教育活動を推進していますか。		スクールポリシー、グランドデザインの作成に関わり、それを意識した教育活動を考えたり、実施したりした職員が80%以上である。	B	B	B		<ul style="list-style-type: none"> 年3回の職員研修で次年度のグランドデザインポリシー(GP)の見直しを行い、全職員でスクールポリシーを意識した教育活動を見直してきた。スクールポリシーの作成に関わり、それを意識した教育活動を考えたり、実施したりした職員は62.5%であった。 		

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	総合		
V 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	12 生徒は「清楚品位」を重んじ、規範意識をもって学校生活を送っていますか。	<ul style="list-style-type: none"> 高女の生徒は規範意識をもって学校生活を送っていると考えた生徒、保護者、職員が80%以上である。 	<ul style="list-style-type: none"> 普段の学校生活の生活指導により生徒の規範意識を高めていく。年度末の学校評価アンケート(生徒、保護者、職員対象)で実態を把握していく。 	A	A	A	高女の生徒は規範意識をもって学校生活を送っていると考えた生徒、保護者、職員は91.0%であった。今後も「清楚品位」を重んじながら、引き続き生徒主体で服装の規定、校則の見直しを行っていき、生活しやすい環境を整えていく。	生徒の意識が高くて良い 上級生や卒業生に相談できる場があると良い
	13 学校は教育相談部や生徒指導部、スクールカウンセラーと連携し、組織的なきめ細かい指導に努めていますか。	<ul style="list-style-type: none"> いじめ悩みアンケートを年3回以上実施している。「いじめが疑われる事実」に対し教育相談部や生徒指導部、またはスクールカウンセラーとの連携が100%できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が気軽に悩みや相談ができたり、SOSを伝えやすい人間関係の構築に配慮をする。「いじめが疑われる事実」については即座に教育相談部や生徒指導部に話が伝わるよう徹底し、連携して対応していく。学校評価アンケート(生徒対象)で実態を把握していく。 	A	A	A	悩みを相談したり不安を伝えたりできる人間関係構築への配慮があると答えた生徒は約80%であった。今後も、生徒の状況把握を細やかに行うと同時に、講演会の実施や教育相談日より等を通して生徒への情報提供やサポート活動を行っていく。	
VI 部活動を推進していますか。	14 生徒は勉学と部活動を両立し、たくましく生きる力を育成していますか。	<ul style="list-style-type: none"> 勉学と両立し、充実した部活動に取り組んでいると感じる生徒が部活動入部者の80%以上である。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動と学習の両立や目標に対して生徒同士が励まし合いながら果敢に取り組める指導を行う。学校評価アンケート(生徒対象)で実態を把握していく。 	B	B	B	勉学と両立し、充実した部活動に取り組んでいると感じる生徒は部活動入部者の79.8%であった。部活動加入者数930名(運動部336文化部594※兼部も含む)今後、部活動顧問契約制度(高女プロデュース制度)により、生徒が主体的に部活環境を創っていく。	学年が下がると「あまり当てはまらない」が増えていることに驚いた。部活に限らず学業以外に力を入れるものをもってほしい
	15 学校は部活動において適切な休養日を設け、心と体の健康を図っていますか。	<ul style="list-style-type: none"> 少なくとも週1回以上の休養日が設けられていると感じる生徒が部活動入部者の80%以上である。 	<ul style="list-style-type: none"> 休養日を計画的に組み、生徒に示すとともに生徒の健康や学習活動に配慮した活動を行う。実態把握は学校評価アンケート(生徒対象)で行う。 	A	A	A	少なくとも週1回以上の休養日が設けられていると感じる生徒は部活動入部者の97.3%であった。県のガイドラインに従い、少なくとも週1日以上の休養日を設定し、学校の実態や全体の活動状況を踏まえながら、より適正な対応をしていく。HPに部活動月間予定・実績表を掲載、部活動へ対する取り組みを見える化し、日々改善に取り組む。	勉学と部活を両立し、充実した生活を送っている生徒が大勢いることをうれしく思う
VII 安全教育の徹底に取り組んでいますか。	16 生徒は交通マナー、ルールを遵守し、事故の未然防止に努めていますか。	<ul style="list-style-type: none"> 自転車通学者のうちヘルメットを着用し、安全運転に努めている生徒が100%である。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に交通安全への意識を高める指導を繰り返し実施する。学校評価アンケート(生徒対象)で実態を把握していく。 	B	B	B	自転車通学者のうちヘルメットを着用し、安全運転に努めている生徒は98.2%であった。交通事故件数(～12月)は、9件であった。命に関わることもあるため、交通事故0件を目指して、引き続き安全教育を徹底していく。交通関係の苦情が増加しているため、交通マナー・ルールの遵守を促していく。	朝の送迎時の小中学生との交差、自転車通学の安全性、グリーンベルトをまたぐ停車、その後ろから追い越すくるまなど危険な場面が多い。通学路の安全対策をお願いしたい。歩行者が安心して通学できるよう車のスピードにも留意してほしいアンケート結果が100%になるように安全対策に努めてほしい 地震への対策をお願いしたい
	17 学校は施設の点検・環境整備に努め、安全な学校環境を整備していますか。	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検を月1回以上行う。学校の施設は安全だと考える生徒、保護者、職員が80%以上である。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検を確実に実施すると同時に危険な箇所について申し出をしてもらう。学校評価アンケート(生徒、保護者、職員対象)で実態を把握していく。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 県の様式に則った職員による学校施設の点検、環境整備を定期的実施し、その面では、安全な学校環境を整備することはできた。しかし、職員の気づけない「整備を要する箇所」の洗い出しは不十分だった。次年度以降は職員目線だけでなく生徒目線からの、学校施設点検方法を検討する必要がある。 	
VIII グローバル教育を充実させていますか。	18 国際交流を促進し、グローバル社会に適応した国際感覚豊かな人材を育成していますか。	<ul style="list-style-type: none"> グローバル人材育成のためのプログラムに満足している生徒が80%以上である。 	<ul style="list-style-type: none"> プログラムの見直しに努め、修正をしていく。活動参加者を対象としたアンケートにより実態を把握していく。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> USA研修等の海外研修を無事に行うことができた。また、明石塾、群馬大学GFLとの合同企画等も充実させることができた。次年度は、新入生全員を対象にしたGSP等の新しいプログラムも充実させていきたい。 	今年度の創立記念講演会は生徒に良い刺激になったと思う
IX SAH指定校の推進に取り組んでいますか。	19 学校は生徒の主体性を尊重し、「自ら考え、判断し、行動できる生徒の育成」を目指す取り組みに向け進めていますか。	<ul style="list-style-type: none"> SAHの取り組みを理解し、その実現に向けて考え、準備を進めていると考えた職員が80%以上である。 	<ul style="list-style-type: none"> SAHコア委員会、校務委員会、職員会議を連携させ職員全体で考え、準備を進める。実態把握は学校評価アンケート(職員対象)で実施する。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度作成した計画に基づいてSAHの各種取り組みを全職員で実施してきた。SAHの取組を理解し、その実現に向けて準備を進めていると考えた職員は68.8%だった。今後、来年度のSAHの取組を生徒や保護者の意見を取り入れながら策定し、全職員で取り組む体制を整えたい。 	活発に動ける生徒ばかりではないので、先生方からのサポートもお願いしたい
X 魅力ある学校づくりに取り組んでいますか。	20 生徒は特色ある教育プログラム等により、高女に魅力を感じていますか。	<ul style="list-style-type: none"> 高女が好きだと感じている生徒の割合が80%以上である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活全体を通し、生徒の主体的な活動に取り組んでいく。実態把握は学校評価アンケート(生徒対象)で実施する。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活全体を通し、生徒の主体的な活動に取り組んできた。高女が好きだと感じている生徒の割合は92.6%であった。今後も高女に魅力を感じる生徒が主体となる特色ある教育プログラムを作っていきたい。 	高女が好きだと回答している生徒がとても多く卒業生として誇りに思う
XI 教育デジタル化に努めていますか。	21 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	<ul style="list-style-type: none"> 各種会議においてクロームブックを活用し、ペーパーレス化が進んでいると感じる職員が80%以上である。 	<ul style="list-style-type: none"> クロームブックをできるだけ多くの会議で活用していく。学校評価アンケート(職員対象)で実態を把握していく。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 授業や会議などのペーパーレス化は進んでおり、今年度からオルフィスの導入による印刷業務の軽減、デジタル採点による採点業務の軽減などの業務改善を図ることができた。 	同窓会役員での連絡もICTを活用し、学校との情報共有がしやすくなり、助かっている